

以下の項目については、ガイドラインとして示すに足る十分なエビデンスや情報がなかったため、または、十分な検討、議論を行う時間がなかったため、次回改訂の際に再度検討することとした。今後、この領域の臨床研究が推進されることを期待する。

1 推奨項目について

① 酸素療法

- ・安静時低酸素血症がない患者の労作時呼吸困難に対する、適切な酸素投与量を検討すること。
- ・終末期（特に、死亡直前期）患者の呼吸困難（低酸素血症あり・なしいずれの状況も含む）に対する酸素投与の効果を検討すること。特に、実臨床における有害事象に関する詳細を明らかにすること。

② 高流量鼻カニューラ酸素療法（HFNC）

- ・高流量鼻カニューラ酸素療法（HFNC）の短期使用と長期使用の効果を分けて検討すること。
- ・高流量鼻カニューラ酸素療法（HFNC）を長期使用する際の適切な使用方法（持続使用、間欠使用、夜間のみ使用、など）を検討すること。
- ・高流量鼻カニューラで高濃度酸素投与を行う必要性について検討すること。

③ 送風療法

- ・送風療法の長期使用の効果を検討すること。
- ・送風療法を長期使用する際の適切な使用方法（持続使用、間欠使用、など）を検討すること。
- ・送風療法を行う際の、風量など適切な設定に関する検討を行うこと。

④ オピオイド

- ・がん患者の呼吸困難に対するモルヒネとその他のオピオイド（オキシコドン、フェンタニル、ヒドロモルフォンなど）の全身投与における有効性および有害事象発現について比較検討すること。
- ・がん患者の呼吸困難に対するオピオイドの定期投与（徐放性製剤定期投与、持続注投与）の有効性および有害事象を検討すること。
- ・がん患者の呼吸困難に対してオピオイドの効果が期待できる患者群を抽出すること。
- ・呼吸困難に対するオピオイドの適切な投与量設定に関する知見を示すこと。
- ・各種非がん慢性進行疾患における呼吸困難に対するオピオイドの有効性および有害事象に関して検討すること。

⑤ ベンゾジアゼピン系薬

- ・がん患者の呼吸困難に対するベンゾジアゼピン系薬の効果が期待できる患者群を抽出すること。特に、不安・抑うつの有無によるベンゾジアゼピン系薬の効果の

違いがあるかを検討すること。

- ・がん患者の呼吸困難に対してオピオイドにベンゾジアゼピン系薬を追加併用することの効果により質の高いデザインの研究で検討すること。

6 コルチコステロイド

- ・がん患者の呼吸困難に対するコルチコステロイドの有効性や有害事象を予測する因子（病態・原因・並存疾患・全身状態〔performance status (PS) など〕など）を同定すること。
- ・特定の病態に対するコルチコステロイドの有効性・有害事象を検討すること。
- ・がん患者の呼吸困難に対するコルチコステロイドの適切な投与量，効果発現までの時間，効果が持続する期間などについて検討すること。

7 その他

- ・看護ケア，リハビリテーション，アロマセラピー，鍼灸などの呼吸困難に対する非薬物療法に関する推奨を行うこと。
- ・ガイドラインを遵守することに関するモニタリング・監査のための基準を示し，方法を提案すること。
- ・今回，推奨項目として扱わなかった呼吸困難以外の呼吸器症状に関するガイドラインの作成を検討すること。
- ・今回のガイドライン作成では，アカデミック COI に関するマネジメントが明確でなかったため，今後のガイドライン作成時にはその点に対する対応を明確にすること。

(山口 崇)